

音色が結ぶ 支援と感謝

被災地との「絆」、音色にのせて伝えよう——。東日本大震災で津波の被害を受けた岩手県大槌町の大槌高校と、就実中・高校(岡山市北区)の吹奏楽部によるコンサートが19日、岡山市内で開かれる。本番が近づき、就実の生徒たちは「心温まる演奏を」と練習に熱を入れている。

就実中・高、大槌高と共演へ

東日本 大震災

大槌町では、国際医療N GO「AMDA」(岡山市)が震災後、仮設診療所を開いて活動。その後、鍼灸院を備えた健康サポートセンターを開き、支援を続けている。学校に文房具や学生服を贈るなど、教育面でも支援してきた。

「支援のお礼に、演奏で感謝の気持ちを伝えたい」という大槌高の思いに応えるため、AMDAはボランティアが被災地支援について講演した就実に打診。両校の共演が実現することになった。交通費もAMDAが援助する。

コンサートに先立ち、部員たちは改めて、発生1年の今も復興の途上にある被災地の現状について、AM

本番に向けて、練習に熱を入れる就実中・高校の吹奏楽部員たち——岡山市北区

「震災、感じ取りたい」19日・岡山でコンサート

DAの説明を聞いた。大槌高は避難所になり、ピークで1千人近い町民が生活。生徒たちが炊き出しや物資の仕分けを手伝った。

荒井優佳さん(2年)は「被災地の写真を見て、地面と想ったら、それが町をのみこんだ海水の水面だった。本当に驚いた」。部長の荒島幸代さん(2年)も「どんな小さなことでも、手を差し伸べることが大事だと思った」という。

当日は、大槌高14人と就実中・高63人が舞台上立つ。大槌高が「北国の春」など演歌メドレー、就実は「陽はまた昇る」などを演奏。一緒にティーズニーメドレーを披露し、最後は「ふるさと」で締めくくる。

赤木敬さん(2年)は「一緒にいい演奏をすることで、少しでも震災を感じ取りたい」と力を込めて話した。

コンサートは19日午後6時から、岡山市北区奉還町1丁目のオルガホールで。

無料。事前にAMDA(086・252・7700)に申し込みが必要。(塩野浩子)